

はじめに

この本は、**はじめて英語で研究発表をするすべての人**を対象にしています。私が静岡県立大学で教えている理系の大学院生と大学生のため、そして同僚の太田敏郎先生と一緒に指導する機会があった静岡県内の高校〔スーパーサイエンスハイスクール指定校（SSH指定校）〕の学生のために開発してきたワークショップ形式のプレゼンテーション講義を本の形にまとめたものです。日本人理系学生の大部分は修士課程や博士課程の間に本格的な学会においてはじめて英語での研究発表をしますが、最近では大学生のときに発表する人もどんどん増えています。私は、そうした学生の皆さんが効率的な英語プレゼンの特徴を簡単に理解し、さらにそれを自分のプレゼンにすばやく無駄なく応用するのに役立ててもらえるようにと思ってこの本を執筆しました。この本の最初にお見せする模範プレゼンは、高校生にも簡単に理解できるようにデザインされています。

この初心者向けの入門書は、科学英語プレゼンで使われている最も基本的で広く応用できる表現とテクニックだけをご紹介します。この入門書は、はじめてプレゼンをする読者のために、その作業をいくつかの工程（プロセス）に分けて1歩ずつ進める手引き書として使えるようにデザインしてあります。それが**5 S プロセス（Story, Slides, Script, Speaking, and Stage）**を中心とする本の構成に反映されています。プレゼンの「科学的な筋書き」（Story）を特定の相手に合わせてはつきり伝えるためにはどう工夫したらよいかを強調している点がこの本のユニークな特徴です。私の経験では、これが未熟なプレゼン初心者の最大の弱点の1つなのです。

一方、この本には**ランダムアクセスマニュアル**という側面もあります。1つ1つのセクションが自己完結しているので、より経験豊富な読者の皆さんも自分のプレゼンの特定部分を改善するために必要なセクションだけを気軽に選んで読むことができるようになっています。その結果として複数のセクションにおいてある程度類似した記述が繰り返し出てくる点は避けられませんでした。最初から最後まで順を追ってこの本を読んでくれる読者の皆さんにとって、この「ランダムアクセス」方式が邪魔にならないことを願っています〔もっと上級者向けの詳しい解説が必要な方は、

Robert Whittier 先生との共著「日本人研究者のための絶対できる英語プレゼンテーション」(羊土社, 2011) をご覧ください]

この本には**スピードチェック**の章も用意してあります。ほとんど時間の余裕がない人でも、「スピードチェック」の章のアドバイスだけを応用することで自分のプレゼンを大幅に改善することができるはずです。

この本は、若い読者の皆さんでも簡単に理解できるようにという意図をもって執筆したので、仮説の検証・学術論文・文献レビュー・引用文献の利用といったような基本的な科学的概念を具体例ではっきり伝えようと努めました。この本でご紹介する上級者向けの科学的な工夫やテクニックの一部を若い読者の皆さんが自分のプレゼンに応用するのに役立ててもらえるように、ガイド形式の**“LET’S PRACTICE!”**も加えました。一方で、読者の多くはまだ若くて経験も不足しているので、年長の研究指導者(教員や教授)のもとで研究発表の研究面を推し進めるのが普通でしょうから、この本では研究内容や実験そのものの展開を取り扱うことはしていません。そうした研究の進め方を取り扱っている素晴らしい本はたくさん出版されています。

この本の執筆をサポートしてくれた数多くの皆さんに感謝の意を表したいと思います。有益なフィードバックを提供してくれた静岡県立大学薬学部と静岡県内の高校の教員や学生の皆さん、科学的なアドバイスと素晴らしい翻訳をしてくれた太田先生、有益で理解ある編集サポートをしてくれた羊土社編集部の冨塚達也さんに感謝致します。模範プレゼンのビデオで素晴らしいパフォーマンスを見せてくれた「橋本花子」さん、平井勇祐さん、匿名希望の「質問者2」さんに特別に謝意を表します。この3人のよいお手本に刺激を受けて、読者の皆さんが高いクオリティの研究発表をすることができることを願っています。

2018年10月

Philip Hawke